

孫の手通信



第5号

平成20年5月10日

玉川孫一郎と歩む会

TEL/FAX: 0475 (42) 1400

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>

「町での行政経験がなくて、町長が務まるの？」
「町民党って言っても、国や県とのパイプがないと心配」—— そんな声をいただきます。

私は、大学を卒業すると、千葉県庁に勤めました。そこで、
観光・交通安全・税金・下水道・県営住宅・道路管理・職業
訓練・選挙管理・消防・不動産取引・サラ金相談など、多様な
業務に従事しました。

みな、直接的・間接的に町の行政にも関連しています。私
は、千葉県庁で培ったこの貴重な行政経験を、ふるさと一宮
のために役立てたいと願っています。また、県庁には多くの
友人が勤務しています。友人たちは、一宮町のために、多く
のアイデアやアドバイスをくれるに違いありません。

国レベルで言えば、当地区選出の自民党の森英介衆議院議
員とは東北大学の先輩・後輩の関係で、折に触れ様々なご助
言をいただいております。また、対談させていただいた民主
党・馬淵澄夫議員にも、「協力を惜しまない」との声援を頂戴
いたしました。

さらに、根本前町長をはじめ、視察に赴いた自治体の首長
さんたちとも強い信頼関係を築くことができました。

今こそ、こうした国・県や他の自治体とのパイプを、一宮
の町づくりのために役立てたいと思っております。

(玉川孫一郎)

対談

矢祭町前町長 根本良一氏にお話を聞く

三月二十九日 福島県東白川郡矢祭町に赴き、矢祭町前町
長の根本良一氏にお目にかかって参りました。

矢祭町は、人口六五〇〇人余り、山間部の小さな町です。
そんな町の前町長・根本氏は、町長を辞められた今でも、テ
レビに新聞に引っぱり張りでこです。それは、根本氏が大胆な行
政改革やユニークな政策を次々に打ち出し、ちいさな寒村で
あった矢祭町を全国ブランドに押し上げたからです。

根本氏には、昨年七月に「未来の上総一宮をつくる会」が
シンポジウムを行った際に、一宮町にお越しいただき、熱弁
を振るっていただきました。

玉川 今日、根本さんにお目にかかれて本当に嬉しく存
じます。去年七月のシンポジウムの折には、私は駐車場係
りをしておりまして、根本さんのお話を伺うことができま
せんでした。しかし、後日、録画で拝見し、根本さんの熱
いお心を感じました。

私は未熟者で、「町長選挙に出馬してはどうか」と推し
ていただいた時にも、最初は躊躇いたしました。しかし、
根本さんの熱いお心を思い出し、わが町も自律した輝かし
い町にしたいと思ひ、決意を固めました。

ところで、矢祭町の商店街を見回してみると、シャッター
を下ろした店がありません。わが一宮も含め多くの町で、
うして矢祭では商店街が元気なのではないでしょうか？

根本 矢祭の近隣の町村はどこでもみんな、商店街の三分
の一は店じまいをしていると聞いていますねえ。でも矢祭
では、閉店はまったくないね。どうしたことかね。

玉川 やはり、役場職員や消防団などへ支払う俸給の一部
を商店街の商品券にしたり、商店街のお買い物スタンプで
納税できるようにしたりする画期的な試みの成果が上が
っているんですね。

根本 昔は、矢祭も貧しくてね。所得水準も県下でも三十
番目。非常に低かったのね。高いのは、職員の給料だけ。
これは県内でも一番高かったんですよ。

だけど、今では所得は県下で七番目に高くなったんです。
郡山市よりも、福島市よりも高い。うちより高いのは、み
んな原発とかがあるところばかりだね。そして、介護保
険は県で八番目に安い。

矢祭は、何もなしどころだけど、みんなお金を持っている
んですよ。豊かです。やっぱり、住民がお金を持っている
るってことは大切でしょ。

だけどね、以前に若い人が、「町長、矢祭には遊ぶとこ
ろがなくて、おもしろくも何ともない。ゲームセンターと
かパチンコとか、作ってくれよ。」と言ってきたの。私は
こう言いました。「矢祭には、パチンコなんかいらな
いよ。若い人には働いて稼いでもらわなきゃ。町がやっていけな
くなっちゃうんじゃないか。」そうでしょ。(裏面(続))



(続き) ところでね、一宮の町長選挙の投票日は、いつなのか？

玉川 五月十三日が告示で、十八日が投票日です。

根本 そうですか。選挙戦になったら、なにが何でも応援に行きますよ。だけどね、私が応援に行ったら、「あの合併反対の町長が来た」とか言われて、かえって印象悪くしちゃうんじゃないかな？

玉川 そんなことはありません。現状では、合併問題は最も緊急の課題ではありません。今は、合併賛成の方も反対の方も、力を合わせて、よりよい町づくりをするときです。

根本さんは、小さくとも輝く町づくりの先駆者です。応援に来ていただければ、この上もなく、幸せです。どうぞ、よろしく願いいたします。

民主党 馬淵澄夫氏と対談

まぶちすみお

三月二十五日 衆議院議員会館にて民主党の馬淵澄夫議員にお目にかかり、お話を伺って参りました。馬淵澄夫議員は、「玉川孫一郎と歩む会」の馬淵昌也会長の従兄弟です。以前、船橋に住んでおられたので、何度も一宮に遊びに来られたそうです。

馬淵 玉川さんは、なぜ町長選に挑戦しようとお考えになりましたか。

玉川 合併問題への取り組みを通じて、町長の権限の大きさを痛感しました。新しい時代を切り開くには、本当に住民本位の、町民の方を向いた町長でなくてはいけないと考えました。また、合併問題に取り組んで、「合併がなくな

ったら、それで終わり」、ではあまりに無責任だ、次の町政にもきちんと責任を持つべきだと考えたのです。

ところで、馬淵さんは、何度も一宮においてなられたそうですね。

馬淵 大学時代、サーフィンに何度も出かけました。当時はただ海があるだけ、という感じでしたけれど、現在は随分浜付けがひどいそうですね。

ところで、地域おこし、町おこしをする住民グループの方にいつもお話するのは、最終的には、首長候補者を立てなければいけないということです。議員・首長の候補を立てて、最終責任をとらなければならぬ。住民の立場で文句だけというのは簡単なのです。その意味で、皆さんの方向は絶対正しいと思います。

玉川 馬淵さんは今後の国と地方の関係についてどうお考えですか。

馬淵 民主党の考えとしても示してありますが、私は地方主権とすべきだと考えています。その為には国会の枠組みを変えねばなりません。人口30万から40万の基礎自治体を全国に300作って、衆議院は300人の小選挙区にしてはどうかと思っています。

国は外交・安全保障・通貨・金融、或いは皇室関係など、



馬淵澄夫氏プロフィール：衆議院議員(奈良県1区)。耐震偽装問題、道路特定財源見直し問題などで活躍中。衆議院予算委員会・安全保障委員会委員。民主党奈良県連代表。

こうしたことのみ扱い、他はすべての権限を地方にまかせ、一括交付金でわたすのがよいと思っています。道路も教育も医療も、それぞれの裁量でやりたい形でやってもらおうがよいと思います。

玉川 国と地方が補完し合うという関係ですね。

馬淵 そうです。地方が自律的に選択し、判断する。地方が自律的選択者とならねばいけないと思います。

玉川 全く同感です。ところで、馬淵さんはなぜ国政の道へお入りになったのですか。

馬淵 もともと政治に関心がありました。会社の経営もうまくいっていたのですが、政治への思いが断ち切れずに挑戦することになりました。私にいわせれば、政治というのは、失ってしまったら最後、二度と取り戻せないものを守ることに、つまり、いのち、尊厳、環境、そして次代を育む教育などを守るのだと考えています。

政治家というのは、人のために尽くす、公のために生きる、現代のサムライだと思っています。そのためにはほかのすべてを犠牲にしなければなりません。その覚悟が無ければやめるべきです。

玉川さんが、すべて裸になって、一宮町をどうしたのか、それにすべてをかけられるのか、その魂の叫びを是非町民の皆さんに伝えて下さい。それしかありません。

玉川 心に響くお話がありがとうございました。精一杯、町民の皆さんのためにがんばりたいと思います。本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

